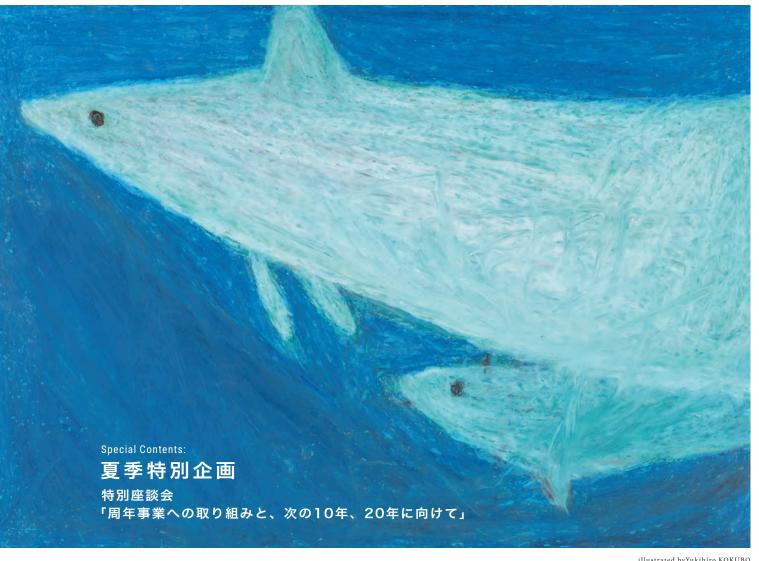




京印季報

Kyoinkiho

2023 SUMMER



Kyoinkiho



2023 SUMMER

1	巻頭言/副理事長 爲國光俊
2	夏季特別企画 特別座談会「周年事業への取り組み
	と、次の10年、20年に向けて」
6	令和5年度通常総会開催
7	理事長メッセージ/理事長 笹原あき彦
7	京都府知事表彰(組合功労者表彰)を受ける
7	叙勲、国家褒章受章者に対する顕彰を受ける
8	京都府印刷企業界功労者顕彰式・優良勤続従業員
	表彰式開催
12	令和5年度近畿地区印刷協議会定時総会開催
13	ビジネスマナー講座開催
14	各種共済制度等加入促進キャンペーン開催のご案内
15	飲料自販機設置紹介事業・共同購入による燃料
	給油カード発行事業のご紹介
15	委員会だより/総務委員会
16	共済委員会
17	統計だより/材料価格定点調査
18	支部だより/上京支部
	下京支部
19	東山支部
	口丹支部
20	会合だより/京都青年印刷人月曜会
	京都印刷協和会
21	いそじ会
22	関連団体だより
22	よしみ散歩
23	組合員NEWS
24	4月・5月・6月定例理事会開催概要
25	事務局からのお知らせ
25	事業者向け補助金・助成金情報について
26	印刷会館利用状況
26	組合日誌
27	組合員異動
27	パートナーシップ今日晃動



27

27

https://kyoinko.jp/

表紙作画者紹介

訃報

編集後記

コロナ感染症もひとつの節目を 迎え、自由に外出できることのあり がたさを感じる機会が増えています。

心身ともに健康であることの大切さや、人と会うことの 喜びをひしひしと感じつつ、3年以上にわたる相当な制 限は私たちの生活や事業にも大きな影響を与えました。

3年前のコロナ以前の社会活動に、"戻るもの"、"も う戻らないもの"、が見えてきましたが、"もう戻らない もの"のひとつとしてデジタル化が挙げられます。その 代表例とも言えるのが「タイパ」。かかった時間に対す る効果や満足度「タイムパフォーマンス=タイパ」が幅 広い世代に注目されています。映画や動画などのコンテ ンツを倍速で視聴しながらスマートフォンで調べ物をす るとか、家事をしながら映像や音声情報から知識を得 る。本の要約サービスを利用すれば、短時間で結論を得 ることもできます。まさしくデジタルを活用した時短術 です。情報過多時代に育った若い世代にとっては、溢れ る情報を取捨選択する必須スキルであるとも言えます が、案外、情報が少なかった時代を生きてきたオヤジ連 中もその流れにのっかりつつあるようです。情報収集に は時間をかけず、価値があることは十分に時間をかけた い、ということでしょう。

私たちの事業活動でも「タイパ」=「時間当りの生産性」は重要で、印刷市場が縮小するなかで利益を確保するために、ムダを省いてコストを切り詰めていくことが求められています。しかし、価格も下がってしまうことになれば企業努力は報われません。そうならないように、コロナ明けの時期にこそ、自社の得意分野を見直して価格競争に巻き込まれない強みを作っていきたいものです。タイパでは計りきれないものが大切に思えます。

京都府印刷工業組合 副理事長 爲國 光俊



特別座談会

製本工組 紙工協組 印刷工組

「周年事業への取り組みと、 次の10年、20年に向けて」

6月26日(月)午後6時より印刷会館に於いて、周年事業に取り組まれている製本工組様、紙工協組様をお招きした特別座談会「周年事業への取り組みと、次の10年、20年に向けて」を開催しました。

3組合より理事長、副理事長、青年部代表者をお招きし、各団体の歩み、成り立ちなど、これまでの変遷を振り返って頂くとともに、周年事業への取り組みと、次の10年、20年に向けて、青年部の活動状況や京都の印刷・同関連業界の未来像について、じっくりディスカッションして頂きました。

今回の特集では、本座談会の要旨をご紹介します。是非ご一読下さい。

出席者

笹原あき彦氏 / 文屋秋栄㈱ 京都府印刷工業組合 理事長

爲國 光俊氏 / ㈱ティ・プラス 京都府印刷工業組合 副理事長

谷口 力氏 / 谷口紙工㈱ 京都府印刷工業組合 京都青年印刷人月曜会会長

大入 達男氏 / ㈱大入 京都府製本工業組合 理事長

藤原 智之氏 / 藤原製本㈱ 京都府製本工業組合 副理事長

早瀬 篤史氏 / 新日本製本㈱ 京都府製本工業組合 親双会会長

西村 公男氏 / ㈱西村紙行所 京都紙工協同組合 理事長

梶原 正己氏 / 梶原紙工 京都紙工協同組合 副理事長

木嵜 崇進氏 / ㈱ファイブ 京都紙工協同組合 二世会代表幹事

司会・進行

藤井 康央氏 / 共栄印刷紙業㈱ 京都府印刷工業組合 副理事長



後列左より 爲國光俊氏、早瀬篤史氏、谷口力氏、木嵜崇進氏、藤原智之氏、藤井康央氏、梶原正己氏 / 前列左より 笹原あき彦氏、大入達男氏、西村公男氏







京都府製本工業組合 出席者

(特別座談会要旨 発言者の敬称略)

■周年事業への取り組みについて

藤井:進行を務めさせて頂く広報委員会所掌副理事長 の藤井です。よろしくお願い致します。本日は京都府 製本工業組合様(以下製本工組)と京都紙工協同組合様 (以下紙工協組)の組合設立100周年のお祝いも兼ね て、周年事業への取り組みや今後の活動について忌憚 のない話を聞かせて頂き、当組合の機関紙でご紹介し たいと思っています。

早速ですが、口火を切って京都府印刷工業組合(以下 印刷工組)の笹原理事長より、昨年開催した印刷工組の 組合創始130周年記念事業を振り返り、当時の思いを お聞かせください。

笹原:印刷工組の理事長を務める笹原です。製本工組 様、紙工協組様の組合設立100周年、誠におめでとう ございます。私たち関連団体が力を併せてこの印刷産 業を盛り上げ、いい未来を築ければと思います。

昨年6月に印刷工組は創始130周年記念式典を開催 しました。当組合の前身である京都印刷同業組合が明 治24年に創始して依頼130年の間、13回の組織や名称 の変遷を乗り越え、大先輩諸氏が今日までバトンを繋 げて下さいました。この歴史の重みを非常に重く感じ ていました。

今思えば、130年の伝統がありながら、さらに未来 に繋げていくには、伝統性と革新性を持ち合わせてい たいという気持ちが常にありました。

テーマである「変化に未来を求めて、変化から始ま る新しい京印工組」というキャッチフレーズが語って いるように、革新を繰り返さないと将来はない。次の 世代の若い人達に「変化することを恐れるな」と伝え たいと思いました。

当初は令和3年5月の開催を予定していましたが、 新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、1年間の 延期となりました。延期が決まったときは大変残念な 思いでしたが、結果的には延期により伝えたいメッ セージが明確になり、当初の計画より充実した内容に なったと思います。

大入:製本工組の理事長を務める大入です。令和6年度 に100周年の節目を迎えるにあたり、笹原理事長が述 べられた改革や変化も大切ですが、当組合は「振り返 る」ことにも重点を置いています。当然前を見るのは 大事ですが、しっかりと振り返り、それを見て次の 100年の計を考えようと思っています。

具体的には、製本の100年間の歴史を振り返り、奈 良女子大学の先生に取りまとめて頂き、本として残そ うと話を進めています。当初は展示会の開催を考えて いましたが、予算の都合で断念しました。

制作に際しては、必ずしも令和6年度中の完成を求め てはいませんので、1、2年程度遅れる可能性もありま す。私達役員が取材を受ける形でこれまでの製本業の歴 史を振り返り、その情報をもとに先生に調査・研究・取 りまとめをお願いする予定です。取材内容は2000部位 発行される冊子にも掲載される予定なので、多数の方々 に製本の歴史に触れて頂けます。反響があればフィード バックして一層充実させたいと思っています。

もう一つの事業としてホームページの制作を考えて います。製本の100年の歴史も紹介します。

西村:紙工協組の理事長を務める西村です。組合の発 足は大正13年5月15日、当初は京都製本紙截同盟会と いう名称でした。製本、帳簿、紙工の3業者により結 成されたようです。

その後、京都製本業組合(昭和4年~15年)や京都製 本工業組合(昭和15年~19年)等に名称が変わってい き、紙工協組の前身である紙工組合が発足したのは70 年前(昭和28年)です。

組合報「時報」から様々な活動実績が見えてきま す。昭和29年に断裁機や打抜き設備の調査を行ってい ました。昭和38年には紙工組合創立10周年を記念して 7月8日に京都ホテルで記念式典を開催しています。 また、翌年の昭和39年には秋の懇親会として、新幹線 を利用した東京行きが行われたと記録されています。 東京オリンピック会期中でもあり景気が良かったので しょう。組合員の創業時期や創業者等を調べたことも あります。組合の歴史をひしひしと感じる次第です。

周年事業は紙工組合の発足以来、10年毎に毎年行っ ています。100周年の記念式典の開催日程は令和6年 5月25日(土)、会場は京都東急ホテルの予定です。こ れから担当委員会、委員長を取り決めた後、詳細を検 討します。楽しい会にしたいと思っています。

藤井: 周年事業は理事長のリーダーシップのもとで実 行されるのは当然ですが、サポート役の副理事長の役 割も小さくないと思います。副理事長各位より、サ ポート役として担ってこられたことやエピソードをお 聞かせ下さい。







应談会会場

爲國:印刷工組の副理事長を務める爲國です。理事長の思いを形にするのが私の仕事でしたが、初めに何を根拠に創始130周年とするのかを調べることからスタートしました。調べた結果は記念誌で紹介しています。

近年周年事業は行っておらず、突然130周年事業を行うことを周囲の方が納得して下さるのか不安でもありました。事業費に応じた予算組みを行う以上、協賛企業様を募ることになるのですが、事業の意義を理解して頂かないといけません。

具体的な事業としては、組合の歴史を紐解く中で、昭和45年から令和3年までの50年間の歩みを綴った記念誌を作りました。また、笹原理事長の「未来宣言」を発表するとともに、私達の組織の変容を紹介する動画と、組合員の若手従業員による印刷業界の現状と課題の分析、そして未来に向けた明るく力強い宣言が収録された動画を準備し、オープニングとクロージングで紹介しました。若手従業員へのインタビューでは、「SNSを活用して印刷のことを知ってもらいたい」、

「もっと我々の中でやれることがあると思うので頑張りたい」等の前向きな言葉が沢山あったので、そのまま映像にして、私達の次の世代の人に問いかけるという形にしました。

藤井:印刷工組は創始120周年(平成22年)に併せ、地下鉄烏丸御池駅構内(南改札付近)に京都印刷発祥之地・記念碑を建立しました。除幕式・昼食会は行いましたが、記念式典は開催していません。式典を行ったのは88周年記念の時まで遡ります。

藤原:製本工組の副理事長を務める藤原です。100周年 事業については1年位前から協議を始めましたが中々 方向性が定まらないでいました。大入理事長が述べら れた展示会についても協議しましたが、予算など様々 な観点から見て厳しいなという結論に達しました。し かし、製本の技術を何らかの形で残していかなければ ならない。そこで、奈良女子大学の先生に、製本技術 の変遷を取りまとめて頂くことにしました。ひょっと すると、一度途絶えた技術も10年後、20年後に復活す るかもしれません。製本技術を止めておくことが、今 回の100周年事業の中の最重要課題だと思ってます。

また、100周年事業としてホームページの制作を予定していますが、同時にECサイトも開設します。製本会社には朱印帳をはじめオリジナル商品を作ってい

る会社が多数あるので紹介したいと思っています。 SNSの活用も考えています。これからの100年に向け ての第1歩になると思っており、大入理事長の思いを 加味しながら進めて行きたいと考えています。

梶原:紙工協組の副理事長を務める梶原です。私は今年で74歳になります。理事の経験も長く大抵のことは経験していますが、今回の100周年事業は若い世代の人に主体になって頂き、私は少し距離をおいて補佐役になればよいと思ってます。先程、製本工組さんからホームページに取り組まれるという話がありました。保有することで一つのステータスなると思いますが、私は古い人間なので次世代の若い理事に任せたいと思っています。

■次の10年、20年に向けた活動について

藤井:印刷産業の出荷額は、この25年の間で、ピークの8兆9,000億から今は恐らく4兆を切っているものと思われます。予測では2025年に4兆を切ると言われていましたが、コロナ禍で3年前倒しになりました。

また、印刷工組の全国の組合員数は、この10年間で30%近く減っています。印刷需要の減少に加えて後継者不足の問題もあります。業界の魅力が薄れていると考えなければなりません。目先の10年、20年の見通しも分かりづらい中ではありますが、3組合より次の時代を背負う青年部トップの方に出席頂いているので、青年部の構成、現状、課題や今後の活動等について述べて下さい。

谷口:印刷工組の青年部である京都青年印刷人月曜会(以下月曜会)の会長を務める谷口です。会員数は48名。その中で20名が印刷工組の組合員、28名が機械商社さん、紙の卸業さん、メーカーさん、印刷関連業者さん等です。毎月、例会を開催する他、親組合主催のセミナーにも参加しています。他府県に比べると会員数の減少は緩やかです。課題は印刷工組の会員が減っている事。全国組織の指示で会長は組合員の中から選出しますが、今後は会長の再任も考えなければなりません。定年は50歳としています。

早瀬:製本工組の青年部である親双会の会長を努める 早瀬です。会員数は15名。その中で10名が製本及び紙 工関係の方、5名がメーカーさんや商社さんです。私 が加入して10年の間に3名の新加入がありました。コ ロナ禍が明け、新しい会員さんが増えそうな予兆があり期待しています。当会も会長を務めたことが無い人が少なくなり、次の10年、20年と続けていくには再任という形をとらなければなりません。定年はありません。全国では45歳定年制が多いですが、その弊害で会員数が1、2名という地区や青年部そのものが無くなった地区もあります。このような状況なのでフレキシブルな対応に努めています。

木寄:紙工協組の青年部である二世会の代表幹事を務めている木嵜です。会員数は15名。その中で7社が紙工関係、8社は業者やディーラー、メーカーさんです。活動としては、任期2年の役員改選・懇親会・総会を2月に開催、夏には納涼会を開催しています。その他、親組合と連携して相互に会員が参加し合うことも行っています。課題は親組合の役員と兼任しておられる会員が増えている事です。純粋な二世会会員は非常に少ない。会員数の増員は難しく、数年に一度、退会される会社があります。定年制はありません。

■京都の印刷・同関連業界の未来像について

藤井:京都府印刷団体協議会参画の7団体では、印刷・同関連業界の連携を深めるという趣旨で新年互礼会を合同開催していますが、特に本日お集まりの3団体は、印刷会館に事務局があるという御縁があります。最後のテーマ、京都の印刷・同関連業界の未来像では、フリートークで率直なご意見をお聞かせ下さい。先程、全国の組合員数の減少についてお伝えしましたが、京都の組合員数もピーク時から半数近くまで減っています。

事務局:ピークは昭和45年の292社でしたが、現在123社なので58%の減少です。

西村:紙工協組の組合員数は、30年前の53社から半数 以上減少して現在は20社程です。賦課金は前回の周年 事業以降、10年間上げていません。

笹原:印刷工組も25年以上賦課金は同じです。

藤原:製本工組では、本部の全製工連へ支払う賦課金 が値上がりした十数年前に値上げした以降、変えてい ません。

笹原:印刷工組の直近の決算は実質赤字でした。組合員が減少して収入が減る中、できるだけ事業を減らさないよう取り組んでいますが、このまま減少が進むと、数年先には事業の継続が困難になることも予想されます。加えて、印刷会館は50年程前の建物のため雨漏りがひどい状況ですが、補修する余裕がない状況です。

大入:私自身は、できるだけ抑えた会計で組合を細く 長く続けて行ければと思っています。先が予測できな い世の中なので、続ける中で何かが見えてくると思い ます。各団体の連携を更に深めることも、とても大事 だと思います。景気のよいときは各々で活動できます が、悪くなれば協力し合わなければなりません。その 方法は、今後各団体で話し合い、考えて行けばよいと 思います。

谷口:毎年、新年互礼会を7団体合同で開催していますが、月曜会や組合の活動を通して他団体様にも面識のある方が増えています。今後更に連携を深めること

ができるのではないでしょうか。

爲國:私が青年部に入っていた時代は経営者になる一歩手前で、とにかく愚痴を言いたかった。愚痴が言える環境は大事で価値があると思います。同時に横の繋がりが緊密になる。親組合では会社の立場やお客様との兼ね合いがあり本音が言えないことも多いですが、青年部では気兼ねせず話せます。お互い社長になったときには既に人間関係のベースができているので、新たな取引に結び付く可能性も増えます。

梶原:紙工協組の二世会は、32年程前、私と西村理事 長など4名が発起人となり作りました。既に会社の仕事 は任されていましたが、代表者はお互い父親だったの で、仕事をお願いする場合はお互いの父を通しで話を してもらってから自分たちに降りてくる状況でした。 息子同士で気軽に話せる機会が必要と思い、作った次 第です。青年部同士の連携により、お互いに仕事を頼 みやすくなるのではと思います。

谷口:ものづくりフェアの打ち上げの二次会で、他団体 の青年部の方と連携について話し合い盛り上がることも あるのですが、その場の話で終わってしまいます。

木寄:個人的な考えですが、1年に1度でもよいので 青年部同士で交流の場を設けることができればと思い ます。限られた人数の中で物事が動くのではなく、横 の繋がりが広がれば新しい発想が生まれるかもしれま せん。一緒に活動できる共通項を探っていけば、新し い連携のあり方が見えてくるのではないでしょうか。

笹原:どのような連携が具体的に考えられるのかを引き続き皆様と検討できればと思います。

藤井: まだまだお話は尽きないところですが、予定の時間が近づいて参りましたので、大入理事長と西村理 事長に本日の総括をお願いします。

西村:製本工組さんと紙工協組が100周年を迎えるに当り、このような座談会を開いて頂きありがとうございました。歴史を振り返るだけでなく、これからの10年、20年先にこの業界はどうなっていくのでしょう。拡大ではなく縮小になりますが、7団体の横の繋がりを若い人たちに託して、これから益々発展していくために取り組んで参りますので、引き続きよろしくお願い致します。

大入:今回、100周年事業に向けた話をさせて頂きましたが、こうして3団体が集まり話し合うだけで、今後の方向性が、おぼろげながらも幾つか見えきたように思います。刺激を頂きました。若い人に託そうという話がありましたが、若い人には、いつまでやっているのだと「取っていく」勢いでいて欲しいと思いながらも、時機を見て渡すべきバトンを渡して行きたいと思っていけます。見方を変えれば、今回のような話し合いを続けていくことが、一つのバトンの形になるのではとも思いました。良い方向に進んでいければと思います。

藤井:印刷工組の理事会では、両団体様の周年事業に 全面的に協力しようという声が多数あります。ご協力 できることがあれば遠慮なくお申し出下さい。本日は ご多忙の中、本座談会にご出席頂き誠にありがとうご ざいました。

(文責 編集委員会)